

2022年9月29日

部会員 各位

一般社団法人 近畿化学協会
エレクトロニクス部会
部会長 中山 健一
(大阪大学工学研究科)

2022年度第2回研究会 ご案内 ＜対面式/オンライン式併用開催＞

拝啓 時下ますますご清祥の段お慶び申し上げます。

平素より本部会の運営に際しましては、種々ご高配を賜わり厚く御礼を申し上げます。

さて、標記研究会を下記の通り開催致しますので、業務ご多繁のところ恐縮ながら、ご都合お繰り合わせのうえご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

(記)

日時 2022年11月22日(火) 14:00~17:10

実施方法 ・対面式：大阪科学技術センター6階600号室（大阪市西区鞆本町

1-8<乗通>OsakaMetro地下鉄四ツ橋線「本町」駅25・28番出口より北へ徒歩約7分、うつぼ公園北詰。

・オンライン式：Zoomによるライブ配信

テーマ 「環境調和型プラスチックの研究開発動向」

1. 講演＜質疑応答含む＞

1) バイオプラスチックの開発動向（14:00~15:00）

大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授 宇山 浩 氏

廃プラスチックが社会問題化したことを契機に生分解性プラスチックへの関心が高まっている。また、カーボンニュートラルに貢献するバイオマスプラスチックの普及も社会的に重要視されている。本講演ではバイオプラスチック(生分解性プラスチックとバイオマスプラスチック)の基礎から実用化の現状、開発動向、将来展望を述べる。加えて廃プラスチック・マイクロプラスチックによる海洋汚染を契機とする海洋生分解に関する現状を概説する。

2) 「木質リグニン循環資源化のためのペプチド基盤人工酵素の開発」(15:05~16:05)

帝京科学大学生命環境学部生命科学科 教授 高谷 光 氏

我々は、木質バイオマスの循環資源化を目的として、木材を原料として所望の有用物質を選択的に合成・生産できる人工酵素の開発に取り組んできた。本講演では、1)化石資源由来分子と比べて複雑性・夾雑性がはるかに高い生体分子の混合物である木質バイオマス中から、リグニンを選択的に認識・結合するペプチドの開発、2)認識ペプチドと遷移金属触媒を結合したメタル化ペプチド基盤人工酵素の開発と触媒機能について紹介する。

3) 「生分解性ポリアミドと生分解性樹脂の海水生分解性」(16:10~17:10)

(国研)産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 生体分子創製研究グループ
主任研究員 中山 敦好 氏

海洋プラ問題の解決策の一つとして生分解性プラスチックが期待されている。本講演では既存生分解性プラスチックと新材料であるバイオベース生分解性ポリアミド(ナイロン 4)について紹介し、これらの海洋での生分解挙動について説明する。また、海洋生分解性の評価法についても紹介する

【参加費】 エレクトロニクス部会会員：聴講無料 【申込締切】 2022年11月16日(水)

【申込方法】 参加申込者1名につき、<https://kinka.or.jp/form/view.php?id=122429> よりお申込みください。

【留意事項】 ※オンライン配信ツールは「Zoom」を利用します。

※パソコン・タブレット等、オンライン配信ツール利用に際しての必要な機材・設備は各自でご準備ください。

※発表者の許可がない限り、受信資料の保存・録音・再配布は固く禁止します。

※参加申込者には、『11/18頃に「接続ID」等』の情報をE-mailにてお届けします。

※参加申し込みをせずに聴講することはご遠慮ください。

一般社団法人近畿化学協会 エレクトロニクス部会

TEL : 06(6441)5531 / FAX : 06(6443)6685 / E-mail:seminar@kinka.or.jp